

出猟記録の分析結果の報告(Ⅲ)

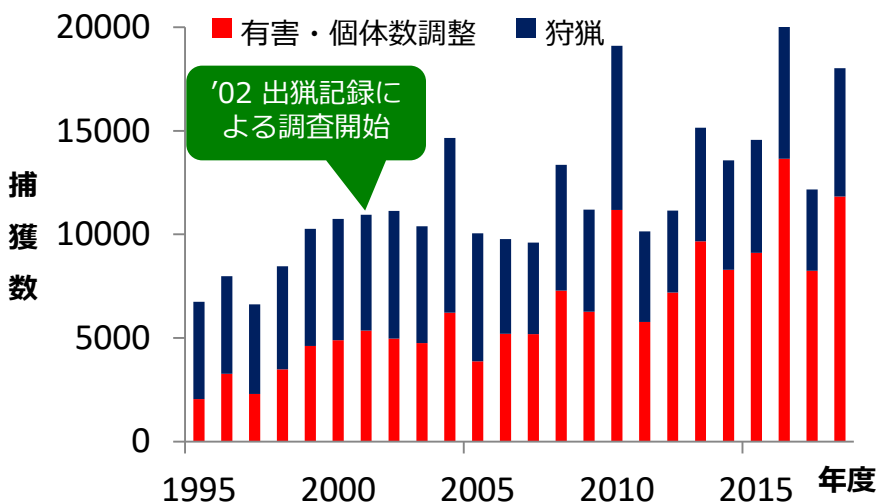
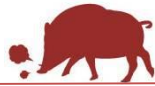
ーイノシシ編ー



ー島根県の狩猟者のみなさまへー

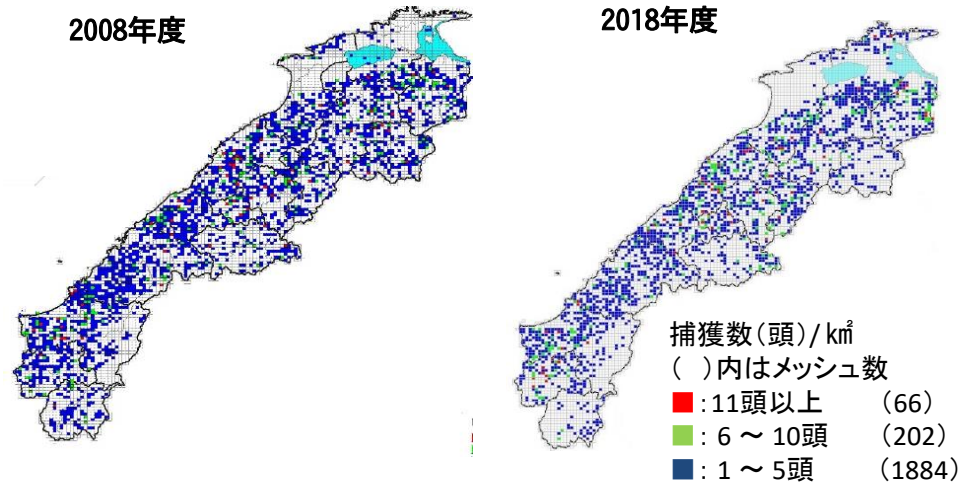
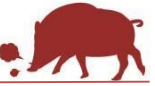
毎年、出猟の記録にご協力いただき、誠にありがとうございます。
この分析によって、イノシシの生息分布域や生息数の変動を把握することができました。
2017年に(Ⅱ)を報告しましたが、その後の分析結果(Ⅲ)の一部を紹介します。

狩猟による捕獲数と捕獲場所



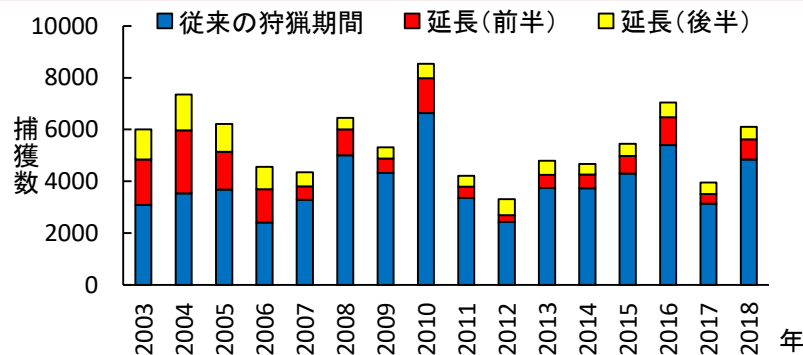
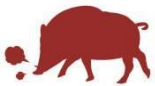
近年は、狩猟と有害・個体数調整を合わせて、10,000～20,000頭が捕獲されており、高い捕獲圧がかかっていることがわかりました。

狩猟による捕獲場所



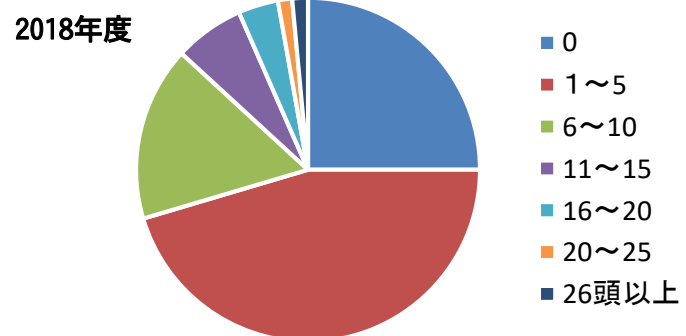
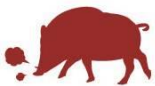
日本海側の低標高域を中心に捕獲されていました。また、島根半島での捕獲場所は、東端の旧美保関町にまで広がったことがわかりました。

猟期延長による捕獲への効果



本県では、2003年度から狩猟期間を11月前半と2月後半に合わせ1カ月間の延長をしています。この延長期間中の捕獲数が18～52%を占めたことから、捕獲数を1.2～2.1倍に増加させたことがわかりました。

一人当たりの捕獲頭数



出猟した狩猟者のうち、1～5頭を捕獲した人が614人(45%)と最も多く、6頭以上を捕獲した狩猟者は、400人(30%)でした。また、捕獲がなかった人は338人(25%)いました。

生息数(捕獲効率CPUE)の動向



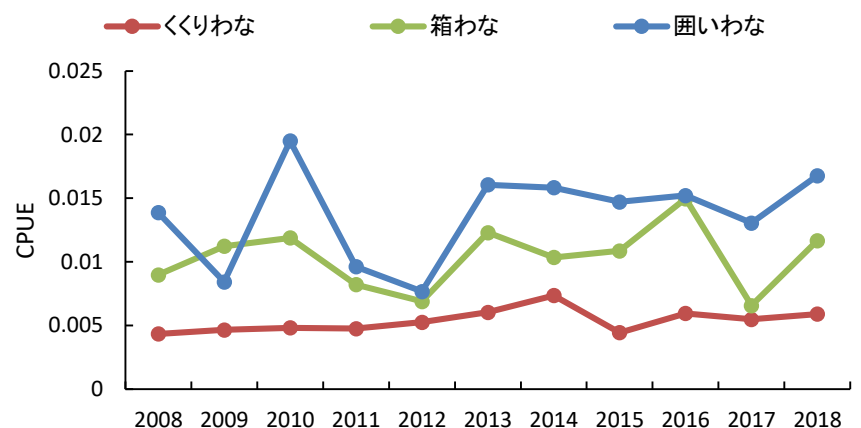
CPUE (Catch per Unit Effort) とは

イノシシの生息数の変動をみるための指標となる数値です。出猟記録から、いつ(月日)、どこで(メッシュ番号)、何が(性別、成幼獣)、どんな方法によって、何頭捕獲されたのかを集計し、本県のイノシシの生息数の変動を推定しています。

$$\text{銃猟の CPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{出猟日数} \times \text{出猟人数}}$$

$$\text{わな猟の CPUE} = \frac{\text{捕獲数}}{\text{設置日数} \times \text{わな台数}}$$

積雪や堅果の豊凶に影響を受け難いくくりわな猟のCPUEは、ほぼ変動がないことから、イノシシの生息数もほぼ横ばい傾向で推移していると考えられました。



わな猟のCPUE(捕獲数/日・10台)

イノシシの生息数を適正に管理するために今後ともご協力をよろしくお願ひします。